入学試験問題

地理歴史

前

（配点 120 点）

平成 23 年 2 月 26 日　　9 時 30 分—12 時

注意事項

1 試験開始の合図があるまで，この問題冊子を開いてはいけません。

2 この問題冊子は全部で 40 ページあります（本文は日本史 4 問 4 ～15 ページ，世界史 3 問 16～23 ページ，地理 3 問 24～40 ページ）。
落丁，乱丁または印刷不鮮明の箇所があったら，手を挙げて監督者に知らせなさい。

3 日本史，世界史，地理のうちから，あらかじめ届け出た 2 科目について解答しなさい。

4 解答には，必ず黒色鉛筆（または黒色シャープペンシル）を使用しなさい。

5 解答は，1 科目につき 1 枚の解答用紙を使用しなさい。

6 **解答用紙の指定欄に，受験番号（表面 2 箇所，裏面 1 箇所），科類，氏名を記入しなさい。指定欄以外にこれらを記入してはいけません。**

7 **解答は，必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。**

8 解答用紙表面上方の指定された（　　）内に，その用紙で解答する科目名を記入しなさい。

9 解答用紙表面の上部にある切り取り欄のうち，その用紙で解答する科目の分を 1 箇所だけ正しく切り取りなさい。

10 **解答用紙の解答欄に，関係のない文字，記号，符号などを記入してはいけません。また，解答用紙の欄外の余白には，何も書いてはいけません。**

11 この問題冊子の余白は，草稿用に使用してもよいが，どのページも切り離してはいけません。

12 解答用紙は，持ち帰ってはいけません。

13 試験終了後，問題冊子は持ち帰りなさい。

◇M5(810—71)

日　本　史

第 1 問

663 年に起きた白村江の戦いとその後の情勢に関する次の(1)～(5)の文章を読んで，下記の設問A・Bに答えなさい。解答は，解答用紙(イ)の欄に，設問ごとに改行し，設問の記号を付して記入しなさい。

(1) 664 年，対馬島・壱岐島・筑紫国等に防人と烽を置き，筑紫に水城を築いた。翌年，答炑春初を派遣して長門国に城を築き，憶礼福留・四比福夫を筑紫国に派遣して大野城と基肄城とを築かせた。

(2) 高句麗が滅んだ 668 年，新羅からの使者に託して，中臣鎌足は新羅の高官金庾信に船 1 隻を贈り，天智天皇も新羅王に船 1 隻を贈った。唐に向けては，翌年高句麗制圧を祝う遣唐使を送ったが，その後 30 年ほど遣使は途絶えた。

(3) 671 年，倭の朝廷は，百済貴族の余自信・沙宅紹明・憶礼福留・答炑春初ら 50 余人に倭の冠位を与えて，登用した。

(4) 百済救援の戦いに動員された筑紫国の兵士大伴部博麻は，ともに唐軍に捕らえられた豪族の筑紫君ら 4 人を帰国させるために自らの身を売った。博麻が新羅使に送られて帰国できたのは，690 年のことであった。

(5) 『日本霊異記』によれば，備後国三谷郡司の先祖は，百済救援の戦いに赴いて無事に帰国したのち，連れ帰った百済人僧侶の力を借りて，出征前の誓いどおり，郷里に立派な寺院を建立したという。この寺院は，発掘調査された寺町廃寺である。伊予国の郡司の先祖についても，同様の話が伝わる。

設　問

A　白村江の戦いに倭から派遣された軍勢の構成について，1行以内で述べなさい。

B　白村江での敗戦は，日本古代の律令国家の形成にどのような影響をもたらしたのか，その後の東アジアの国際情勢にもふれながら，5行以内で述べなさい。

第 2 問

次の表は，室町幕府が最も安定していた4代将軍足利義持の時期(1422年)における，鎌倉府の管轄および九州をのぞいた諸国の守護について，氏ごとにまとめたものである。この表を参考に，下の(1)・(2)の文章を読んで，下記の設問A～Cに答えなさい。解答は，解答用紙(ロ)の欄に，設問ごとに改行し，設問の記号を付して記入しなさい。

氏	国
赤松	播磨，美作，備前
一色	三河，若狭，丹後
今川	駿河
上杉	越後
大内	周防，長門
京極	山城，飛騨，出雲，隠岐
河野	伊予
斯波	尾張，遠江，越前
富樫	加賀
土岐	伊勢，美濃
畠山	河内，能登，越中，紀伊
細川	和泉，摂津，丹波，備中，淡路，阿波，讃岐，土佐
山名	但馬，因幡，伯耆，石見，備後，安芸
六角	近江

(1) 南北朝の動乱がおさまったのち，応仁の乱まで，この表の諸国の守護は，原則として在京を義務づけられ，その一部は，幕府の運営や重要な政務の決定に参画した。一方，今川・上杉・大内の各氏は，在京を免除されることも多かった。

(2) かつて幕府に反抗したこともあった大内氏は，この表の時期，弱体化していた九州探題渋川氏にかわって，九州の安定に貢献することを幕府から期待される存在になっていた。

設　問

A　幕府の運営や重要な政務の決定に参画した守護には，どのような共通点がみられるか。中央における職制上の地位にもふれながら，２行以内で述べなさい。

B　今川・上杉・大内の各氏が，在京を免除されることが多かったのはなぜか。２行以内で説明しなさい。

C　義持の時期における安定は，足利義満の守護に対する施策によって準備された面がある。その施策の内容を，１行以内で述べなさい。

第 3 問

17 世紀前半，江戸幕府は各藩に，江戸城や大坂城等の普請を命じた。そのことに関する次の(1)～(4)の文章を読んで，下記の設問A・Bに答えなさい。解答は，解答用紙(ハ)の欄に，設問ごとに改行し，設問の記号を付して記入しなさい。

(1) 城普請においては，それぞれの藩に，石垣や堀の普請が割り当てられた。その担当する面積は，各藩の領知高をもとにして決められた。

(2) 相次ぐ城普請は重い負担となったが，大名は，城普請役をつとめることが藩の存続にとって不可欠であることを強調して家臣を普請に動員し，その知行高に応じて普請の費用を徴収した。

(3) 城普請の中心は石垣普請であった。巨大な石が遠隔地で切り出され，陸上と水上を運搬され，綿密な計算に基づいて積み上げられた。これには，石積みの専門家穴太(あのう)衆に加え，多様な技術を持つ人々が動員された。

(4) 城普請に参加したある藩の家臣が，山から切り出した巨石を，川の水流をたくみに調節しながら浜辺まで運んだ。これを見て，他藩の者たちも，皆この技術を取り入れた。この家臣は，藩内各所の治水等にも成果をあげていた。

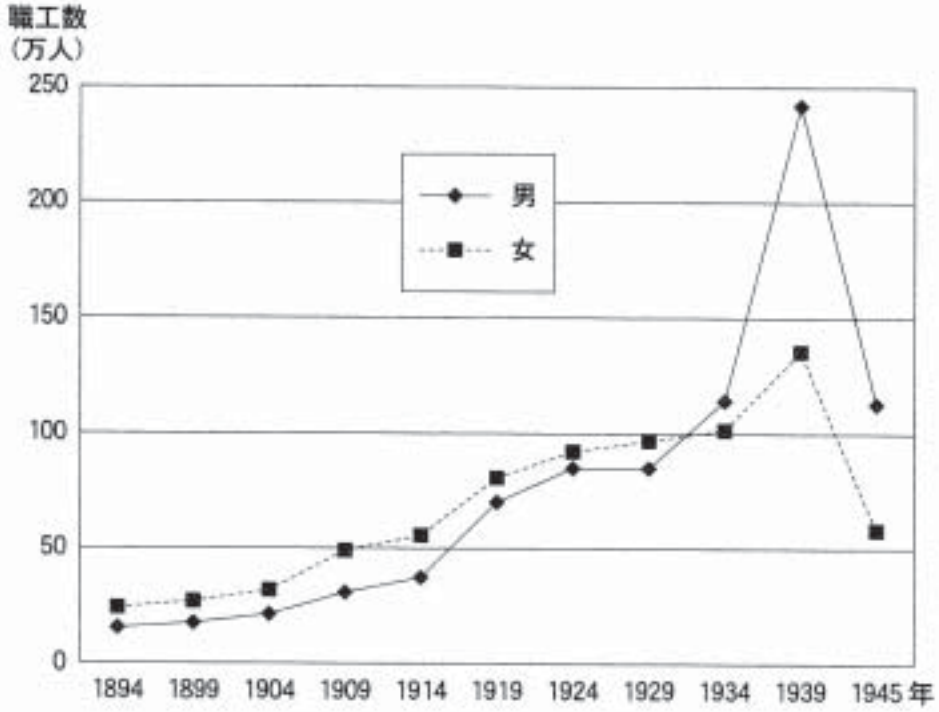
設　問

A　幕府が藩に課した城普請役は，将軍と大名の関係，および大名と家臣の関係に結果としてどのような影響を与えたか。負担の基準にもふれながら，3行以内で述べなさい。

B　城普請は，17 世紀の全国的な経済発展に，どのような効果をもたらしたか。2行以内で述べなさい。

第 4 問

次のグラフは，1945 年以前に日本(植民地を除く)の工場で働いていた職工について，男女別の人数の変化を示したものである。このグラフを見ながら，下記の設問A・Bに答えなさい。解答は，解答用紙(二)の欄に，設問ごとに改行し，設問の記号を付して記入しなさい。



設　問

A　1920 年代まで女性の数が男性を上回っているが，これはどのような事情によると考えられるか。当時の産業構造に留意して，3 行以内で説明しなさい。

B　男性の数は 1910 年代と 30 年代に急激に増加している。それぞれの増加の背景を，あわせて 3 行以内で説明しなさい。